

○受賞者からの喜びの言葉

(北海道職業能力開発大学校 生産機械システム技術科 岡崎 諒氏)

今回、優秀実践技術者賞（学生の部）を受賞することができ、誠に感激しております。応用課程の開発課題実習ではエコモビリティ車両の開発・製作として1年間取り組み、車両を開発するための知識と技術を学ぶことができ、成長することができました。その取り組みを評価していただけたことが、何よりもうれしく思います。

応用課程での課外活動として、企業の方々や事業団体の方々が主体となり取り組んでいるEMV（イモビー）プロジェクトというプロジェクトに参加させていただき、試作機を製作しました。その試作機を製作するにあたって様々な技術を学ばせていただきました。その技術を活かして開発課題実習にも取り組むことができました。

また、このプロジェクトを通して、様々なイベントへの参加や企業の方々とのお話ができたことはとても貴重な経験となりました。

4月からは社会人になりますが、北海道能開大で学んできたことを活かし、社会に貢献できる技術者を目指して働く所存です。どうもありがとうございました。



賞状伝達式の様子と記念撮影（上）、エコモビリティ車両と受賞者（下）



○受賞者からの喜びの言葉

(山形県立産業技術短期大学校 建築環境システム科 吉田 圭佑氏)

2年間という短い期間の中で、多くの経験を積ませて頂き、優秀実践技術者賞を受賞できたことは、自分の誇りでもあり、学生生活の中でも1番の思い出になりました。

卒業研究として、東北ポリテックビジョン建築系ものづくり競技会での優勝を目指し、チームメイトとともにコンクリート供試体の製作に取り組んできました。最初は不慣れな点多く苦労しましたが、精度の高い調合設計方法を把握するために何度も試験練りを重ね、多くの時間と労力を費やして供試体を作製した結果、競技会本番では今までにない高精度の数値を出し、昨年度に引き続き優勝することができました。

コンクリートの調合設計方法と強度の関係について基本から学び、普通コンクリートから高強度コンクリートまで目標強度通りに製作出来るようになった事は、大きな自信となり、とても貴重な経験になりました。

卒業後は、住宅会社の施工管理技術者として勤めるので、今までの学生生活の中で得た知識と経験を活かし、技術者としてさらに高みを目指していこうと思います。



賞状伝達式の様子



○受賞者からの喜びの言葉

(東京電機大学 工学部 二部機械工学科 涌井 勇輔氏)

在学中に職業訓練を受ける機会があり、高度な技能伝承を施されました。そのため東北旋盤大会の銅賞（H25.12）、一級機械加工技能士（H29.10）となることができました。現在、東京大学 生産技術研究所 試作工場に勤務しております。旋盤大会受賞後に東大公募（H26.秋）を発見しました。東大のエントリーシートには学歴・学位・特記事項しかありませんでしたが、特記事項に二級技能士と旋盤大会の銅賞受賞を記入できました。JEED・実践研の先生方が一般大学からでも大会参加を許してくださったお蔭です、感謝に耐えません。社会人学生となり、卒業を迎えると同時に、日本初の職業訓練の学会である実践研より優秀実践技術者賞を受賞できたこと、東大職員の誉れとし、日本のものづくりに貢献してまいります。選考委員長の和田教授、選者の先生方、電大の恩師に熱く感謝いたします。ありがとうございました。



和田委員長からの賞状授与と記念撮影

○受賞者からの喜びの言葉

(東海道職業能力開発大学校 生産電子情報システム技術科 山下 幸祐氏)

この度は優秀実践技術者賞をいただき、大変光栄に存じます。審査していただきました先生方、私を推薦していただきました先生方に心より感謝申し上げます。

卒業研究に相当する開発課題において、機械・電気・電子情報の3科12名のメンバーで構成された私たちのグループは、企業と共同で機械の組立工程の一部を省力化する自動機を開発しました。私は装置内の通信と画像処理による検査の設計・実装を担当するとともに、グループリーダーとして3科の意見のまとめや進捗管理を行いました。人数の多いグループでの議論と意思決定、企業側の要求仕様と実際に製作する装置の仕様の摺り合わせといった作業は、経験不足もあって困難の連続でしたが、最終的にはメンバーの協力の下、要求仕様を満たす装置を完成させることができました。

専門分野の異なるメンバーおよび企業の方と製品の開発に関わったことは、私にとって大変貴重な経験となりました。開発課題を通じて、専門的な技能・技術だけでなく、情報共有や意見調整、スケジュール管理といった、プロジェクトを円滑に進めるための多くの手法を身につけることができました。

4月からは職業訓練指導員の資格取得を目指します。今回の経験を活かし、様々な業務に対応できるようになりたいと思います。

最後になりますが、温かくご指導くださいました東海職業能力開発大学校の先生方に深く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



賞状伝達式の様子

○受賞者からの喜びの言葉

(熊本県立技術短期大学校機械システム技術科 チーム PORTA)

※PORTA メンバー 上田将矢、内田直哉、増永矩大、窪田文紀

このたび、優秀実践技術者賞（学生の部）という大変栄誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。受賞の知らせを聞き驚くと共に大変嬉しく思っております。

この一年間、卒業研究として、「ポリテックビジョン2018 in 北九州」で開催されるロボット競技会に向けたロボット製作に携わりました。ロボットの機構設計やマイコンでのモータ制御など、授業で学んだ知識をより実践的なものへと深めていくことができ、興味を持って取り組むことができました。また、計画性や協調性などものづくりに欠かせないチームワークも学ぶことができました。夜遅くまで学校に残ってロボットを調整し、初めてすべてが動いたときは大変嬉しかったことを覚えています。今回ロボット競技会に出場し優勝することができたのも同じ目標に向かって努力してきた仲間がいたからこそ成し得たことだと思います。

入学してまもなくの4月14日、16日に熊本地震という今までに経験したことのない災害に遭い、日々の生活はもちろんのこと、学校はどうなるのか、卒業は出来るかなどの不安を抱えた学校生活の始まりでしたが、この3月24日に無事卒業を迎えることが出来ました。これも、ボランティアの皆様や全国からの温かいご支援を頂いたからだと思います。この場をお借りいたしまして心より感謝申し上げます。

私たちは、4月から熊本県内企業へと就職し実践技術者への道を歩みだします。今回の経験を大切にして頑張っていきたいと思っております。最後になりましたが、ご指導をして頂いた先生方や応援をくださった皆様にお礼申し上げます。



賞状伝達式の様子



PORTA メンバー記念撮影

○受賞者からの喜びの言葉

(石川職業能力開発短期大学校 生産技術科 小坂 郁也氏)

優秀実践技術者賞という素晴らしい賞を頂くことができ、大変嬉しいです。ポリテクカレッジ石川に入学し、1年生の機械加工実習で初めて機械加工というものに触れました。最初は、高速回転することが怖かったのですが、1つの塊から形作られていく様子に興味が出てきました。そんな時に、先生からの勧めで出場した競技会で、銅賞をとることができました。この経験のおかげで、自分の技術力に自信を持って就職活動を進めることができ、製造業の会社へ就職することができました。4月からお世話になる会社には汎用の工作機械をはじめ様々な機械があります。これからも、ポリテクカレッジ石川で培ったものを活かし、発展させていきたいです。

賞状伝達式の様子（下）と記念撮影（上）

○受賞者からの喜びの言葉

(関東職業能力開発大学校 生産技術科 秋山 恵亮氏)

優秀実践技術者賞を頂きありがとうございます。2年間の取り組みがこのような形で評価され、とてもうれしく思います。

私は1年生のときから機械製図を学び始めました。北陸能開大でのポリテックビジョンや若年者モノづくり競技会へ出場しましたが、結果は良いものとは言えませんでした。しかし、2年生の時に受検した技能検定機械・プラント製図2級の実技試験では、満足のいく図面を作図することができ、合格することができました。このような結果を得ることができたのも、2年間諦めることなく取り組み続けたからだと思います。

今後も自身の更なる技術力の向上を目指して、諦めずに取り組み続けていきたいと思います。

(関東職業能力開発大学校 生産電子情報システム技術科 末永 将善氏)

表彰をいただき、とてもうれしく思っております。

私がこのような表彰を受賞できたのは、自分の力だけでなく、環境を用意して下さり指導をして下さった先生方のおかげであり、とても感謝しております。

これを糧に、これからは社会人として頑張っていきたいと考えております。表彰の機会を下さいました皆様に、心よりお礼申し上げます。

(関東職業能力開発大学校 生産電気システム技術科 長江 翔氏)

この度はこのような賞をいただき光栄に思います。

私は技能五輪の「電子機器組立て」職種に参加し、3度全国大会に出場しました。技能五輪とは参加資格は満23歳以下で青年技能者の技能・技術レベルの日本一を競う大会です。技能五輪を通して学んだ事が2つあります。

1つ目は目標に対して自分の不足している部分を見出し、どのようにすれば改善できるのかを考えることです。目標を達成するには目標ばかり見ても絶対に達成することはできません。そのため、目標までにある多くの壁に向き合い地道に達成することが大切であると思います。

2つ目は周りの人とのコミュニケーションの大切さです。訓練を進める中で、自分が行なっている事が正しい道に進んでいるのか分からなかったり、自分が現在行っていない工夫点を他者は見出している、といったことがあります。「電子機器組立て」職種は個人競技ですが、周りの人と意見を出し合いながら互いに目標に向けて駆け抜けていく事で、自分一人では達成することができない場所にまで到達できる事を学びました。

これからも困難な出来事があると思いますが、4年間の大学生活と技能五輪で培った技術や知識を活かして乗り越えていきたいです。

（関東職業能力開発大学校 生産技術科 二宮 毅氏）

優秀実践技術者賞をありがとうございます。2年間の活動が認められたことを嬉しく思います。2年間私を指導して下さった先生方に感謝しています。

私は2年間、関東能開大で様々なことを学ぶ上で、特に製図の技能向上に取り組んできました。製図の技能向上を図るうえで明確な目標ができました。若年者ものづくり競技大会の機械製図職種に出場し、優秀な成績を収めることです。目標の実現に向け、同じ目標に向け、共に学ぶ仲間とともに切磋琢磨し、お互いに技能の向上に大きく結びつきました。大会に出場した際は、同じく大会に出場した高校や大学校の学生、教師の方と交流が持て、とても有意義な時間を過ごすことができました。大会の成績も銅賞をとることができ、自身の自信にもつながりました。

4月から関東能開大の応用課程に進学し、製図の技能を更に向上させていきたいです。



伝達式の様子



受賞者記念撮影

（左から、長江 翔氏、末永 将善氏、二宮 毅氏、秋山 恵亮氏）